

附近に逃げたのもあつたのであります、所が此の北庭に向つて逃げたウイグル民族は、暫く經ちまして懿宗皇帝の時に、此處から更に南の高昌、今日の哈喇和卓<sup>カラホージャ</sup>と云ふに入り込んで、其の地の防備の弛むで居るのに乗じて之を占領し、其處で又一つの根據を造つて、是から後にタリームの盆地地方に更に勢力を占むることになるのであります、尤も漠北から逃れたウイグル民族の入り込んだのは此處だけではありません、甘州肅州の方にも入り込んだのであります、それは宋の時代に、西夏の爲に滅ぼされて仕舞つて、ウイグルの一番大きい群はカラホウジャを中心として留まることになつたのであります、以上はウイグル族の人種、住地、及び其盛衰の有様の極めて大體であります。

此民族はどんな生活状態であつたかと申しますと、勿論申上げるまでもなく遊牧の生活をして居つたのであります、後に今申しましたカラホウジャ地方に移りまして、其土地の風俗習慣などの影響を受けて、遂には定著して土地を耕すものがあると共に舊來の遊牧をやるものもあるといふやうな生活に移つたものであります。

宗教はどうかと申しますと、唐以前にはどんな宗教を有つて居つたものやらよくは分りませぬ、けれども他の同時代の類似の民族の状態から考へて見ますと、今日の所謂シャマン教と云ふものに屬するものであつたらうと思はれます、即ち滿洲の言葉で言へばシャマン、土耳其語はカムといふ所の巫のやうなものがあつて、これが神と人との間に立つて吉凶禍福を占ひ、人に慰安を與へるといふやうな信仰状態であつたものと思はれます、所で八世紀の中頃、七百六十二三年の頃から、此の民族は摩尼教<sup>マニ</sup>を信ずるやうになつて居ります、此の宗教は波斯のゾロアスター教を本にして、それに佛教、基督教などを加味して作つたものだと言はれて居ります、一旦彼等が摩尼教を奉